

短歌

古歌ひとつ口にふふみて眠らかに
夢のいくつを重ねて生きて
連休で美しかったレンゲ田も
耕耘されて米作スタート
朝茶飲む今日のはじまり健やかに
八十八夜の歌口ずさむ
草のかれ花も枯れ行く様子見て
助ける力我にはあらず
青々と勢いて伸びる雑草に
薄き背中のきりきり痛む
若者の重荷にだけはならぬやう
体だいに九十路を生く

東 左千子
村上 成章
赤星 文恵
坂本 竹子
石山 幸子
池田たかお

かなしき原俳句会

暮れ残る筑紫平野や麦の秋
河鹿聞き一と夜の宿にやすらぎぬ
亡き友は心に生きし鉄線花
雨に日に蚊帳吊草の増えてゆく
時鳥夜明けの静寂破りけり

貞子
しん子
淑乃
きよみ
康子

楊貴妃の名もて緋牡丹艶やかに
薔薇散りてこの世の定め思ひをり
雨予報田植準備も着々と
朝の日に玉解く芭蕉揺れ初める

弘子
淑
良一
謙三

菊水俳句会

子も孫も皆そろって種まきす
青もみじ所作美しき墨衣
虎耳草茶花に選り風炉手前
年重ね小さきからだ衣更
村じゅうの田水に映ゆる山河かな
夕闇のせまれば激し時鳥

原 かよ子
池田 松子
中山 ミサト
宮中 ミスエ
宮中 康雄
永田 紘彦

肥後狂句会

高う低う 段差気にせず暮しよる
高う低う 均らさにや苗は植えにつか
高う低う 新米ママの床屋さん
誰も彼も 我がが一番可愛かつ
誰も彼も 世界の平和願つとる
誰も彼も 見わけのつかん歳になり
行ったり来たり 今度はメガネ探しとる
行ったり来たり 落とした指輪見つからん
行ったり来たり 赤提灯が悪かたい

池田 茜
瀬上 歌子
庄山 道草
二瀬 桔梗
福永すみれ
後藤 撫子
石原かわせみ
井上りんどう
高木せいや

人権の窓 14

「六曜」って何だろう？」

今年、手帳を買ったら、日付と曜日の下に「六曜」が書いてありました。最近ではあまり見なかったのが六曜について調べてみました。

「六曜」とは「大安」「赤口」「先勝」「友引」「先負」「仏滅」の順番で一揃いです。この「六曜」は、鎌倉時代の末期に中国から日本に伝わりましたが、中国ではとうの昔に姿を消しています。元来、「六曜」には「仏滅」などの字句はなく、「空亡」と表記されていたが、江戸の末期に、あたかも釈迦の死との関係や宗教的意味があるような「仏滅」という表記に変更されています。

その後、文明開化を旗印とする明治政府は、一八七二年（明治五）十一月、従来の太陰暦を太陽暦に変更する「明治の改暦」を行い、同時に、「六曜」などは、根拠のない全くの迷信、妄想であり、正しい知識の開発を妨げるものである」として、暦への記載を禁止しました。しかし、このような明治政府の強い禁止令にもかかわらず、色々な形で発行され、特に、戦後の混乱期に再び流行し、今日に至っているのです。



和水町人権教育指導員

緒方正雄

その仕組みは現在の七曜と同じように、ただ日にちを区別するための記号であり、その順番は単純に旧暦の月日によって決められています。例えば今日が旧暦の三月三日だとしますと、この月の数と日の数を足します。三十三で六になります。これを六で割ります。六÷六で割り切れずから「大安」です。一あまれば「赤口」、二あまれば「先勝」、三あまれば「友引」、四あまれば「先負」、五あまれば「仏滅」になります。こうして、「大安」↓「赤口」↓「先勝」↓「友引」↓「先負」↓「仏滅」が順番に繰り返されるのです。

「六曜」では「大安」は良い日、「仏滅」は悪い日となっていますが、個人にとって、「良いこと」「悪いこと」があつたとしても、「日」そのものには吉凶はないはずです。

差別のない地域社会を目指す人権教育の取り組みでは、「みんなが言っていることだから」と、迷信や慣習を受け入れてしまうことが、いわれのなき差別を受け継いできた土壌となっている」と提起しています。私自身が根拠のない迷信や慣習に縛られていないかをもう一度考えていきたいと思いました。

図書室 本紹介

三加利公民館 だより

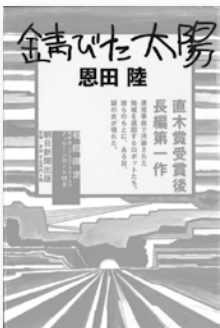


Message Card

7月に入り、梅雨も明けて本格的な夏がやってきますね！熱中症が心配される昨今ですので、たまには図書室で涼みながらゆっくり読書の時間を楽しみたい方がたくさんいらっしゃると思います。また、他にも読んでみたい本がある場合は、希望図書を書き込む用紙にご記入ください！出来る限り取り揃えます！

『錆びた太陽』

恩田 陸 著



直木賞受賞後の第1作目！！人間が立ち入れない区域をパトロールするロボット「ウルトラエイト」。彼らの居住区にある日、人間が現れた。彼女の目的はいったい何なのか…。ロボットと彼女「財護徳子」の温かい三日間の物語です。

『君は月夜に光り輝く』

佐野 徹夜 著



「発光病」と呼ばれる難病……。月の光に照らされると淡く光を放つという。人生の終わりはそこまで近づいている中で精一杯生きようとする「まみず」。彼女を支える「卓也」の健気でまっすぐな思い。二人の気持ちが交錯する中で進みだす物語。静かに重く胸を衝く作品です。

『地域でいちばんピカピカなホテル』

宝田 圭一 著



夏休みにもかかわらず、お客様が8名しかいらつしやらなかった廃業寸前のホテル。そんなホテルを、地域でいちばんのホテルに変えたのは、「あいさつ」「そうじ」「でんわ」でした。人も施設も輝きました。すごい仕組みが満載の作品となっています。

新婚さんいらっしゃい

- Q. 入籍日は？
A. 平成29年2月14日
- Q. 知り合ったきっかけは？
A. 友人の紹介
- Q. お互い何と呼び合っていますか？
A. 夫：みさきちゃん
妻：まことくん
- Q. 日ごろ生活していくなかで心がけていることは？
A. 仲よく 楽しく 元気よく！
- Q. 奥様から一言！
A. いつもお仕事遅くまでお疲れさま。家のことも手伝ってくれてありがとう。これからも仲よく過ごそうね♥♥



やまさこ まこと みさき
山迫 慎・美咲さんご夫婦(立石)

※多くの新婚ご夫婦の「新婚さん定住奨励金」の申請をお待ちしています。詳しくは、お問い合わせください。